

# “日光苺”の声価にこたえるもの

## 燐硝安加里とCDU化成と…。

### 栃木県下都賀郡壬生町を訪ねて

## 河 見 泰 成

#### いちごの栽培適地と

##### “日光苺”の主産地・壬生町

わが国で栽培されているいちごの起源は、北米東部の野生種“バージニア”，南米チリや欧州の野生種に発すると云われる。徳川幕府時代に導入されたが中断し，その後明治，大正になって再び導入され静岡，神奈川，兵庫，大阪，奈良，千葉の各府県と北海道などで栽培されたが，大した伸びは示さなかったようである。

ところが戦後，連合軍が進駐して来るにつれ，ようやくわれわれの食生活が欧風化するとともに，進駐軍へ生鮮野菜を提供する需要が強い刺戟となって，俄然30年頃からいちごの栽培も大きく展開しはじめたことは事実である。

すなわち，この頃からビニールフィルムがいちごの栽培に応用されはじめ，さらに38年頃からビニールハウスによる栽培法がとり入れられた。つまりビニールハウスは管理労力が少なく済むうえ，収穫期も長期化するためいちごの生産性は非常に高くなり，以後関東以西の太平洋沿岸地帯に善及し今日の隆盛を見るに至ったと云われている。

昭和41年以後の作付面積と収穫量の動向を参考に示してみよう。(面積ha，収穫量t)

年次	面積	収穫量	年次	面積	収穫量
41	10,400	96,800	44	12,500	128,400
42	11,500	102,600	45	12,800	133,000
43	11,600	115,600			

東北本線“石橋駅”西方ほぼ10軒の地点に，東武宇都宮線“壬生駅”を玄関口とする壬生町(みぶまち)がある。ここは徳川幕府時代三万石の城下町・市場町として発達したところで，その後は醸造業・製菓業を主とする中小工業が営まれるほか，農業的には平瓢(かんびょう)の産地として知られていたが，最近では県内に幾つかある他産地の先頭をきる“日光苺”の主産地として確固たる基盤を築きあげたところとして知られている。

みかんの黄が冬をいろいろの感触なら，いちごの紅は春から初夏へかけての風物詩とも云えるであろう。あの柔らかく舌にとける酸味ある果汁は，咽喉(のど)にえも云われぬ刺戟と，処女のような新鮮さを感じさせずに置

かない。

時も良し春は4月，しかも出盛り期の苺の状況を視察かたがた，“日光苺”の栽培にいささか寄与しているという“燐硝安加里”と“CDU化成”についての取材をも兼ねて3月下旬の或る日，チッソ旭の江口さんと壬生町農業協同組合に経済部長の条川さんを訪問し，いろいろと伺った。

“おお，待ってたっけ…”

江口さんの顔を見るなり条川さんはこう云い，さらに，“事務所の方ではやま



壬生町農協の内部

しいから…”

と，奥の応接間に招き入れて“今日はいちごの取材とやらご苦労なかってすな。”と挨拶された。

“壬生の農協の取扱高と云えば，米が4億4000万円，苺4億7000万円，麦が2億円(これはこの辺でビール麦を栽培しているため)46年度の計画では12億2000万円ということになってっから，苺は実に40%を占めている訳だ。”

“適地と云えば何も苺に限ったことではねえけども，苺の場合，土壤水分の問題は特に重大で，良質のいちご産地の土壤は排水が良好で，しかも保水力が大きく，さらに毛管水による下層土からの水分供給が大きいことが必要だと云われる。有難いことにわが壬生町はこの近くを流れる



経済部長の条川さん  
(壬生町農協で)

黒川の沖積層という恵まれた環境にあって，土地も肥え，肥料の吸収力も強い。ところがここからそれ程遠くはない所だけども，その辺に男体山の噴火をまともに受けた地域がある。そこでは，降るにせよ降らぬにせよ

水による影響は深刻。事実、雪が溶けるのでも、わが方はとっくに無くなってののに、そっちではまだ残っているってえ訳だ。これは一体どういう訳かなあ。”

条川さんの話で壬生町の耕土が土壌的に恵まれていることは、これでハッキリしたが、条川さんは“これはアトで支所で山崎君によく訊いて貰いてえけっども…”と前置きして、

“どうもチャンとした基準があるのに、肥料をやり過ぎる嫌がある。そのためかどうか、昨年7、8月頃の大雨のあとと土壤障害が出た。或は根腐れだという話もあるけっども、土壤毒害しただけで済むかどうか？堆肥を呉れてやれまいけっども、給源が一般に少なくなっているばかりでなしに、農家はあまり積極的ではないのでねえ…”

苺の生産を折角ここまで持ってきたのに、これから先きが心配だと云われるのである。

そこで話題を変えて苺の栽培一特に壬生町農協でCDU化成や燐硝安加里を積極的に施肥設計に組み入れた理由を訊ねたが、それに対する条川さんの答えは次のようであった。

<日光苺施肥事例>

株 冷 仮 植 床 (kg)

肥料名	施肥量	N	P	K	Mg
堆 厩 肥	2000kg				
燐硝安加里1号	100	15.0	15.0	12.0	
苦土炭カル	160				
計	2260	15.0	15.0	12.0	

株 冷 蔵 い ち ご

収量目標2トン 施肥基準量 N 7~8 P 7~8 K 7~8kg

施肥上の注意

1. 堆肥2トン、苦土炭カル150kgを施用
2. 全量元肥を原則とし、植付10日前にハウス内全面、全層施肥とする。
3. 沖積層で砂壤土の場合は、油粕10kg程度増施するが追肥をする。

肥料名	施肥量	N	P	K	Mg
CDU燐加安555号	30kg	4.5	4.5	4.5	
油 粕	60	3.0	1.8	0.6	
過 燐 酸	10		2.0		
硫 加	5			2.5	
計	105	7.5	8.3	7.6	

肥料名	施肥量	N	P	K	Mg
燐硝安加里S604号	20kg	3.2	2.0	2.8	
油 粕	90	4.5	2.7	0.9	
過 燐 酸	20		4.0		
硫 加	10			5.0	
計	140	7.7	8.7	8.7	

“われわれは組織によって動かねばならん。それにはどうすればいいか？苺について云えば、まず生育を斉一にしたい、それから出荷期を一定にしたい。それには同じ肥料で、同じ施肥設計で栽培する。そのためにはこれらの肥料がいいと考えた。こういう訳だ。”

“肥料を統一した結果？ああ大いにあったねえ。お蔭でわれわれ組織によるものはその目的を達成したけっども、そうでない農家（業者系統に出荷したもの）はそうは行かなかったもんなあ”

聞くだに誠に愉快な話ではないか！

根腐れだ、土壤障害と云っても

あれは明らかに肥料の呉れ過ぎだ

壬生町農協本所から車で7、8分、同町上稲葉にある稲葉支所に向い、支所長の山崎さんにお目にかかる。

“今年のいちご？昨年の7掛というところかなあ。とに角7、8月頃雨にやられたりで出来は良いとは云えない。その代り値頃でカバーできるということになりやすいかな？2月16日が初出荷で、概算1億7000万円から1億8000万円と踏んでいる。出荷率を見ると、昨年比110%から120%、まあ120%には行くと見ているけっども、株

山 上 げ い ち ご

収量目標2トン 施肥基準量 N 12-15 P 12-15 K 12-15kg

注 施 上 の 注 意

1. 堆肥2トン、苦土炭カル150kg施用
2. 全量元肥を原則とし、植付10日前にハウス内全面に全層追肥とする。

肥料名	施肥量	N	P	K	Mg
CDU燐加安555号	50kg	7.5	7.5	7.5	
油 粕	100	5.0	3.0	1.0	
過 燐 酸	10		2.0		
硫 加	10			5.0	
計	170	12.5	12.5	12.5	

ハ ウ ス い ち ご

目標収量2トン 施肥基準量 N 20 P 20 K 20kg

施 肥 上 の 注 意

1. 堆肥2.5トン、苦土炭カル150kg施用
2. 全量元肥を原則とし植付10日前に、全層施肥する
3. 連棟ハウスは3割増とする。
4. 追肥は必要に応じて液肥を施用する

肥料名	施肥量	N	P	K	Mg
CDU燐加安555号	100kg	15.0	15.0	15.0	
燐硝安加里S604号	20	3.2	2.0	2.8	
過 燐 酸	10		2.0		
ケ イ フ ン	100	3.0	3.0	1.3	
計	230	20.0	20.0	20.0	

冷も終り連棟も3月末には終り—というように、今年は5月には収穫終りになるかな？”

“普通10a当り1.6トン獲りの目標で、47~48万(粗収入)だから、手間と時間はかかるけども、いちごは決して割が悪いとは云えない。この辺の作型は“山上げ”20% “株冷”20%，“連棟ハウス”40%，“トンネル”20%となっているけども、1戸3反経営となると、こういう作型にしねえと経営はととてもむずかしい。現時点では家内労働は3名以上を望むことは無理だろうから、いちごは兼業ではできねえす。”



今年はまだまあという  
とこだな…。(梁島さんの  
作業場で語る山崎支所長)

“とに角この辺は、文字どおり“単純農村”だから、この頃の若いもんにはカッコ良いとこではねえ。だが、一面救いもある。ここはビール麦の栽培が盛んな所だが、麦は播いたら播いたきり、米の生産調整に協力しての休耕田は、いちご定植前の仮植ほ場に利用できる。”

“ああ根腐れのことねえ。農家は土壤障害だ、根腐れだと騒いでいるけども、あれはどうも“肥料の呉れ過ぎ”だな…。とに角考えてもご覧、雑草というものは生活力の非常に強いもんで、どんな悪環境でも出てくるもんだが、よく調べて見ると、根腐れ発生地帯にはあの強靱な雑草がまるで見当らねえす。これは明らかに濃度障害だと見ている。“肥料の呉れ過ぎ”の低地に7~8月に大雨が降った。障害発生に逃(あつらえ)向きの条件だなあ…江口さん。”

“ああ根腐れのことねえ。農家は土壤障害だ、根腐れだと騒いでいるけども、あれはどうも“肥料の呉れ過ぎ”だな…。とに角考えてもご覧、雑草というものは生活力の非常に強いもんで、どんな悪環境でも出てくるもんだが、よく調べて見ると、根腐れ発生地帯にはあの強靱な雑草がまるで見当らねえす。これは明らかに濃度障害だと見ている。“肥料の呉れ過ぎ”の低地に7~8月に大雨が降った。障害発生に逃(あつらえ)向きの条件だなあ…江口さん。”

“ああ根腐れのことねえ。農家は土壤障害だ、根腐れだと騒いでいるけども、あれはどうも“肥料の呉れ過ぎ”だな…。とに角考えてもご覧、雑草というものは生活力の非常に強いもんで、どんな悪環境でも出てくるもんだが、よく調べて見ると、根腐れ発生地帯にはあの強靱な雑草がまるで見当らねえす。これは明らかに濃度障害だと見ている。“肥料の呉れ過ぎ”の低地に7~8月に大雨が降った。障害発生に逃(あつらえ)向きの条件だなあ…江口さん。”

仲間うちにやCDU化成を

50袋やったのもいるよ……。

“では梁島さんとこへ行って見っか…。”と、山崎さんが先導で壬生町苺出荷組合長の梁島さんを下稲葉のお宅にお訪ねした。

壬生町もこの辺に来ると、見るからにすがすがしい農村風景が展開する。

裏手?と思われるところから入ると、右手前方に作業場があり、梁島さんは奥さんと、ちょうど用務で来訪していた農協稲葉支所の指導担当の鯉沼さんを相手に、いちごの箱詰をされているところだった。

“ウム、何?チッソ旭の肥料といちごの取材に来た…と?”と云った梁島さんは

“ほれ、ここに  
あるのは  
みんなお宅の  
肥料のご厄介  
になったいち  
ごだて…”  
と指さした。



こりや、お宅の肥料で作った苺だて…  
(作業場で語る梁島さん)

美事に色づ  
きたいちごの  
香りが漂う。  
“根腐れは

肥料の呉れ過ぎだそうだけども、百姓も人間だ、欲は誰にもあっからなあ、中にはCDU化成50袋ぶっ込んだ者もあるよ。それでまた当たったときたら、恐らくこたえられねえからなあ…アハ…”

と笑いとばしたが、この話には流石(さすが)の筆者も驚いた。

“おらのとこは38年から始めているが、どうしてどうして忙しいなんてえもんじゃねえ。おらとこはハウスとトンネルで20aの経営だが、中には30aから40a~50aとやっている連中もいるが、こうなるともう飯食うひまも無えくらい忙しい。”



年がら年中忙しいばかりで  
(稲葉支所の鯉沼さん)

まだいろいろと話ははずんだのだが、紙面の都合で残念ながら筆をおく。

別項に作型例と、施肥例の幾つかを示した。

…………… 春まさに酎というところ。皆さんい  
あ と が き …………… かにお越しですか。4月号をお届け  
…………… します。

農業における労働力の減退は非常に暗いかげを投じていますが、その中であって、一方ではなかなか堅かったりした後継者がいることは、3月号に載った和歌山県宮原地区のミカン農家の場合にもハッキリ窺われ、いささか心強いものを感じます。

ますます元気に活躍されることをお祈り致します。  
(K生)